



# 桐花

大槌町立吉里吉里学園  
小学部 通信 No.6  
令和6年8月22日  
文責 藤井

吉里吉里学園小学部の校報「桐花」は右のQRコードを読むことによってカラー版をご覧いただくことができます。(大槌応援団サイトへ) →



8月20日(火)子ども達が元気に登校し2学期がスタートしました。学校下の天照御祖神社にはお祭りの準備がなされ、いよいよ夏の終わりをを感じる季節となりました。夏休み中子ども達はご家族と地域の皆様の見守りの中たくさんの地域行事に参加したり、夏休みでなければできない体験を数多く積んだりしながら、楽しく過ごしたようです。2学期は86日間の学校での活動となります。日数も多い学期ですが学校行事等も一番多い学期となります。始業式では「一日一日を大切にしながら、明るく希望に満ち溢れた自分を思い描きながら2学期を過ごしてほしい」と子ども達に伝えました。2学期もよろしくお願いたします。

始業式で代表として発表した、児童会副会長の中村史唯さんの作文を紹介します。

## 夏休みの思い出と2学期の目標

六年 中村 史唯

ぼくが夏休み楽しかったことは二つあります。

一つ目は、サッカーでの五戸遠征です。朝早く釜石からバスで青森県に移動しました。

とても暑い日で試合するのも大変でした。きびしい夏の暑さでしたがぼくは必死にボールを追いかけて、守りました。そして頑張った結果MVPを頂きました。

その日の夜は、五戸のチームとバーベキューをしながら花火大会をチームのみなどと一緒に見ました。MVPをとったことや、花火を見たことが、とてもうれしく、楽しい一日でした。

二つ目は、学校の友達やサッカーの友達と海に行ったことです。イカダまで行き、みんなとイカダに設置してある滑り台で遊んだり、イカダから飛び込んだりして遊んだことです。

二学期頑張りたいことは三つあります。一つ目は勉強です。一学期より難しくなっていると思うので、たくさん考えて発表したいです。

二つ目は児童会活動です。文化祭などの行事があるので自分で考えて行動した

いです。みなさんも行事を通して、あいさつや挑戦することを頑張りましょう。

三つ目は運動です。陸上記録会やマラソン大会があるので、たくさん走って自己ベストを出せるように頑張りたいです。マラソン大会では一位をとれるように頑張りたいです。

二学期は様々な行事があります。

吉里吉里学園のみんなと協力しながら目標に向かって頑張りましょう。



代表の史唯さんの発表を真剣なまなざしで聞いている姿に2学期良いスタートが切れたと感じました。始業式開始時刻10分前に集まったクラスも全校児童が集まるまで立派な態度で待っていました。その姿に感心しました。

## 大槌町の防災教育充実のために

8月19日(月)大槌町長 平野公三様 教育長 松橋文明様 他大槌町協働地域づくり推進課より4名の皆さんが本校に来校し、大槌町が作成した「大槌町震災教育研修研究用資料」についてのご説明をいただきました。

近年、震災の伝承活動における語り部の不足や震災記憶の風化等により次の世代への語り継ぎが課題となっている中で、「この資料を活用して各校の防災教育に役立ててほしい」という願いで大槌町の当時の様子や復興の歩みに特化した記録集を作成したという事でした。

説明では平野町長様直々に震災体験談をお話していただき、当時の悲惨な状況について詳しく知ることが出来ました。その後、資料についての説明をしていただきましたが、このような資料を市町村独自で作成しているのは県内では初めてという事です。

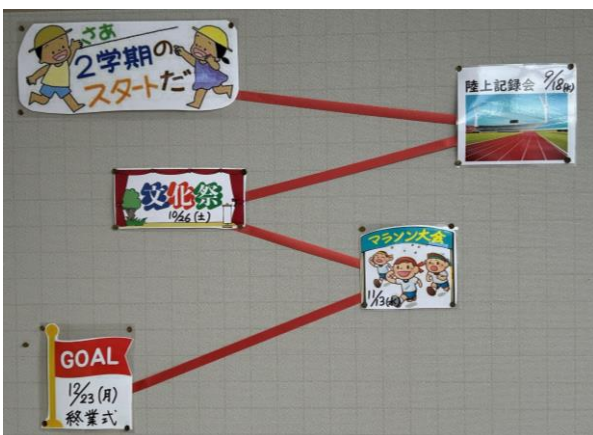
大槌町の教育大綱の中でも防災教育は重要な柱の一つとして位置付けられており、本学園でも小学部での避難訓練やふるさと科、小中合同避難訓練、3.11集会等で取り組んでいます。今回新しい資料が完成したことによって、より子ども達に深く学ばせることが出来ると感じています。

夏休み中には南海トラフ地震の注意が出されたり、日本海溝型大地震における津波発生時の最大の高さのが40メートルに達するという予想が出されたりしています。正しい知識を身につけさせ二度と悲惨な被害に子ども達が見舞われないようにこれからも防災教育に力を入れて取り組んでいきたいと思います。



※その他たくさんの資料が掲載され全体で71ページとなります

## ～学校の風景より～



2学期がスタートし学校行事に取り組みながら充実した日々を送り GOAL を目指すというイメージが明確に伝わる掲示ですね。どんな目標を立てて取り組むのでしょうか。楽しみです。(海階段 1階から2階へのおどり場に掲示)小國先生作

2学期がスタートし、早速取り組むのは陸上大会へ向けた練習です。始業式後の午後に先生方がラインを引いて下さりました。ラインが引かれると「頑張ろう」という気持ちが不思議とわいてきますね。